

寺
ごよみ

一 月

一 日 除夜の鐘

年頭参り

一四日 法要準備

御正忌

一五日午前十時 お講

午後一時 法要

一六日午前十時 お講

午後一時 法要

講師：雲林重正師

新潟・浄秀寺副住職

二八日 仏婦総会 & 新年会

本山団体参拝

日程：四月三日～四日

定員：三十名ほど

お申込みはお早めに！

寺 報 善 巧

ぜん ぎょう

発 行

〒 938-0862 富山県
黒部市宇奈月町浦山 497
白雪山 善巧寺
TEL (0765)65-0055
FAX (0765)65-0975
<http://www.zengyou.net>



親鸞聖人の祥月命日

御正忌

一月十五日～十六日

「自立は、依存先を増やしていくこと。希望は、絶望を分かち合うこと。」

(小児科医・熊谷晋一郎先生)

私たちは、家族や友人、仕事、趣味、お金など、様々なものを頼りにして生きています。「依存」と言うところあまり良い響きを持ちませんが、人は一人では生きてはい

けず、たくさんの支えがあるからこそ安定を保てます。すべてのいのちの繋がりが「縁」を説く仏教から考えても、目に見える支え、目に見えない支えをひとつでも自覚し、感謝の日々を過ごしたいものです。

ただし、どんなに頼りにしても諸行無常、常なるものは何一つなく、過剰な依存は危険を伴います。依存先がひとつに偏ると、それが崩れた時に自己崩壊しかねませんので、依存先を増やすことを心がけてみるのもよい

依 存

のではないのでしょうか。その上で仏教では、依存をひとつずつ手放していく道（聖道門）と、依存を離れない我が身を知らされ阿弥陀仏に帰依していく道（浄土門）が用意されています。

専如門主のご親教には「少欲知足」というお言葉が出てきました。「欲を少なくして足ることを知る」とは、とても難しいことですが、ほっておくとどこまでも落ちていく私には忘れてはならない言葉です。

仏教は死んだ後の話でもなく、机上の空論でもありません。今まさに私自身が問われる「生き方」が説かれています。正直なところ、即席で響く教えではないと思いますが、心の支えに不安のある方は、それを仏教に問うことをお勧めします。

善巧寺住職 雪山俊隆

平成二十八年十月一日より本願寺にて「伝灯奉告法要」が始まりました。その初日にお話された第二十五代専如門主のお言葉を掲載します。紙面の都合上、前半を割愛しておりますことをご了承下さい。全文は本願寺のホームページにも掲載されています。

※ ※ ※

親鸞聖人は煩惱を克服し、さとりを得るために比叡山で二十年にわたりご修行に励まれました。しかし、どれほど修行に励もうとも、自らの力では断ち切れない煩惱の深さを自覚され、ついに比叡山を下り、法然聖人のお導きによって阿弥陀如来の救いのはたらきに出遇われました。

阿弥陀如来とは、悩み苦しむすべてのものをそのまま救い、さとりの世界へ導こうと願われ、その願い通りにはたらき続けてくださっている仏さ

ます。この願いを、本願といえます。我執、我欲の世界に迷い込み、そこから抜け出せない私を、そのままの姿で救うとはたらき続けていくのださる阿弥陀如来のご本願ほど、有り難い慈悲はありません。しかし、今ここでの救いの中にあるながらも、その慈悲ひとすじにお任せできな

方へとつくり変えられていくのです。それは例えば、自分自身のあり方としては、欲を少なくして足ることを知る「少欲知足」であり、他者に対しては、穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語」という生き方です。たとえ、それらが仏さまの真似事といわれようと、ありのままの真実に

も少しずつ好まぬようになり、阿弥陀仏の葉をつねに好む身となっておられるのです」とお示しになられています。たいへん重たい教示です。

今日、世界にはテロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題

念仏者の生き方

伝灯奉告法要ご親教より専如門主のお言葉

い、よろこべない私の愚かさ、煩惱の深さに悲嘆せざるをえません。

私たちは阿弥陀如来のご本願を聞かせていただくことで、自分本位にしか生きられない無明の存在であることに気づかさ

れ、できる限り身を慎み、言葉を慎んで、少しずつでも煩惱を克服する生き

教え導かれて、そのように志して生きる人間に育てられるのです。このことを親鸞聖人は門弟に宛てたお手紙で、「今、す

べての人びとを救おうという阿弥陀如来のご本願のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという三つの毒

が山積していますが、こ

れらの原因の根本は、ありのままの真実に背いて生きる私たちの無明煩惱にあります。もちろん、

私たちはこの命を終える瞬間まで、我欲に執われた煩惱具足の愚かな存在であり、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いはできません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心になう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです。



**第二十五代専如門主
伝灯奉告法要**
The Commemoration on the Accession of the Jodo Shinshu Tradition

親鸞聖人から興えて二十五代、
石山寺専如門主に浄土真宗の
み教えが伝えられたことを、
奉告・披露する法要を執り行います。
お寺にご参りの方はいない方、
どなたにも参拝いただけます。

法要 修行 期 日	
2016 (平成28) 年	2017 (平成29) 年
第1期 10月1日(土)～8日(土)	第5期 3月7日(火)～14日(火)
第2期 10月20日(土)～27日(土)	第6期 3月28日(火)～4月4日(火)
第3期 11月4日(金)～11日(金)	第7期 4月11日(火)～18日(火)
第4期 11月18日(金)～25日(金)	第8期 4月25日(火)～5月2日(火)
	第9期 5月9日(火)～16日(火)
	第10期 5月24日(火)～5月31日(火)

浄土真宗本願寺派 龍谷山 本願寺
TEL 075-371-5131 FAX 075-371-5132 http://www.hongan.jp/kyoto



寺報の郵送作業、清掃奉仕、前日の準備、いつもありがとうございます。

報恩講

十月十九〜二〇日

今年の報恩講は大阪より高田慈昭先生をご講師にお招きして行われました。近年は参拝者の平均年齢より若い先生が多いですが、今回は先生が参拝者の上をいく八十七才。年上からのお言葉はより説得力があるようで、参拝者もとても喜んでいました。年齢を感じさせないエネルギーが話しぶりに尊いご縁をいただきました。

空華忌

十一月四〜五日

空華忌は第十一代住職僧鎔（そうよう）の法要です。今回は二三四回



僧鎔法師の伝説「実のないイチョウの木の話」制作…上坂次子さん（浦山）

忌にあたり、住職と副住職が法話を担当してつとめました。僧鎔は善巧寺にとつて最も大事な方です。無事におつとめさせていただきました。

正信偈に学ぶ

十一月十七日

昨年からスタートした行信講座「正信偈に学ぶ」は今回で四回目となりました。

先代隆弘は年に一度、行信教校の行事「専精舎」に参加して一年分の話を聞くと言っていました。天岸浄圓先生のお話とは



でも密度が高く、後日、録音テープを何度も聞いて少しずつ理解していくほどです。

次回は四月十二日です。どうぞ足をお運びください。



御正忌ごしょうき

親鸞聖人の祥月命日に
つとまる法要です。

一月十五日（日）

午前十時 お講

午後一時 法要

十六日（月）

午前十時 お講

午後一時 法要

講師：雲林重正師

新潟・浄秀寺副住職

年頭参り

一月一日午前八時

御正忌準備

一月十四日午前九時

仏婦総会&新年会

一月二十八日午前十時

本山団体参拝旅行募集

日程：四月三、四日

参加費：三万八千円

定員：三十名ほど

※お申込みは
お早めに！



本願寺の「伝灯奉
告法要」に参拝
し、翌日は吉本新
喜劇を楽しみま
す。

正信偈に学ぶ ～行信講座～

日程：四月十二日（水）

講師：天岸浄圓先生

参加費：二千元（僧侶五千元）



初参式・七五三募集

日程：四月二十三日（日）

午前十時 初参式

午後一時 七五三

参加費：三千元

※お申込みはお寺まで。

今年の花まつり
は、赤ちゃんの誕
生を祝う「初参式」
と、こどもの節目
を祝う「七五三」
を行います。

寺
ごよみ

二 月

合 掌

- 一日 おこう（浦山）
- 一三日 生地・荻生・植木
- 一四日 生地・荻生・植木
- 一五五 生地・荻生・植木
- 一六日 おこう（下立）
- 一七 舟見報恩講
- 二〇 入善報恩講
- 二一 入善報恩講
- 二二 熊野・柝屋報恩講
- 二三 熊野・柝屋報恩講
- 二四 熊野・柝屋報恩講
- 二七 三日市報恩講
- 二八 三日市報恩講

寺
ごよみ

三 月

- 一日 おこう（浦山）
- 二 三日市報恩講
- 三 三日市報恩講
- 七 下立報恩講
- 八 下立報恩講
- 九 下立報恩講
- 一三 浦山報恩講
- 一四 浦山報恩講
- 一五 浦山報恩講
- 一六 おこう（柝沢）
- 二一 浦山報恩講
- 二二 浦山報恩講
- 二三 浦山報恩講
- 二四 浦山報恩講
- 二八 浦山報恩講
- 二九 浦山報恩講

ここ数年、本堂前の三
角雪囲いは木材の老朽化
で保留していました。目
処が立てば新設する予定
でしたが、ここ十年以上、
運営費が下がり続けてい
る中では通年の維持が難
しく、今後もこの状態が
続きます。冬季の入口は
本堂右側の玄関をご利用
下さい。

※ ※ ※

お寺に來られている方
はご存知のことですが、
住職の姉有花が諸事情に
より離婚して二年半ほど
実家に戻っておりまし
たが、昨年五月に再婚し島
根県の禮光寺様へ入寺さ
せていただきました。事
後報告となり申し訳あり
ませんが、どうぞ暖かく
お見守りくださいますよ
うお願い申し上げます。

